

動く→動かす アフリカ NGO 招へいプログラム

ラウンドテーブル アフリカ市民社会と考える TICAD プロセスの今後

2009年10月20日（火）午後2時～5時

東京大学駒場 I キャンパス 18号館コラボレーションルーム 1

動く→動かす TICAD アドボカシーチーム

東京大学「人間の安全保障」プログラム

ラウンドテーブル：アフリカ市民社会と考える TICAD プロセスの今後

日時：2009年10月20日（火）午後2時～5時

会場：東京大学駒場 I キャンパス 18 号館コラボレーションルーム 1

主催：動く→動かす／東京大学「人間の安全保障」プログラム

以下、敬称略、末尾に参加者一覧

1. 座長あいさつ：廣野良吉

廣野です。昨年、TICAD 外務省・NGO 定期協議会の司会も何度かやりました。
西村政務官を迎えてラウンドテーブルを開催できることをうれしく思います。

2. 開催趣旨およびアジェンダの説明：動く→動かす 稲場

【開催目的】

- ・ TICAD プロセスにおいてアフリカと日本の市民社会が果たすべき役割に関する共通理解を形成します。
- ・ アフリカ開発と TICAD5 に向けた取り組みの再活性化します。
- ・ 横浜行動計画を実行し MDGs 達成を実現する方法を一緒に考えます。

【検討事項】

- ・ 金融危機の中で、アフリカ開発に日本と TICAD プロセスが果たすべき役割とそのための方法。
- ・ 「人間の安全保障」に基づく援助政策と TICAD プロセスを通して MDGs 達成に寄与していくために必要なこと。

【成果物】

- ・ ラウンドテーブル報告書

【TICAD プロセスと市民社会】

- ・ 1993 年の TICAD に先立って市民グループ主催の「アフリカシンポジウム」が開かれ、市民社会オブザーバーが TICAD に参加した後、AJF が発足。
- ・ 1998 年、NGO ネットワーク・ACT (Action Civile pour TICAD) が、アフリカの市民社会と協力して TICAD II に向けて提言を提出し、市民社会オブザーバーが TICAD に参加。
- ・ 2003 年、NGO ネットワーク・ACT2003 と外務省が定期協議を開催、アフリカの市民社会と協力して地域準備会合から TICAD III にオブザーバーとして参加、TICAD に向けた市民社会シンポジウムを開催、提言を提出し、TICAD III 本会合市民社会セッションでスピーチ、TICAD III 後、TICAD 市民社会フォーラム (TCSF) が発足。



座長をはさんで、西村外務大臣政務官と ADC・オパム団長

- ・2008年、TICAD IV・NGO ネットワークと外務省が定期協議を開催、アフリカの市民社会と連携して地域準備会合・閣僚会合に参加、市民シンポジウムを開催、Voices を提出し、TICAD IV本会合で市民社会代表がスピーチ。
- ・現在、動く→動かす TICAD アドボカシーチームが中心となった TICAD フォローアップ・メカニズムに対する取り組み。

3. 外務大臣政務官あいさつ：西村智奈美

- ・市民社会、国際機関を含む TICAD 関係者が参加するラウンドテーブルに参加できてうれしいです。
- ・新しい政府にとっても、TICAD プロセスはアフリカ支援の中心課題です。
- ・鳩山首相は、人間の安全保障を気候変動問題、核問題と並ぶ重要事項と表明しており、達成を目指して努力を倍増します。
- ・岡田外務大臣は、政権につくまで民主党市民活動推進議員連盟代表であり、市民社会との連携を重視しています。
- ・国際協力 NGO と政府との連携は重要です。
- ・官庁の業務見直しが進む中、市民社会が国際協力、ODA が必要と声をあげることは重要です。
- ・新規資金メカニズムのための会議の準備があり、残念ながらここで退出します。

4. TICAD プロセスの現状、今後の取り組み

TICAD フォローアップ・メカニズムについて：TICAD 事務局 岡井朝子

- ・TICAD IV終了後、100以上の調査ミッションを派遣しました。
- ・今年2月に TICAD プロセス・モニタリング合同委員会（JMC）を東京で、3月に TICAD 閣僚級フォローアップ会合をボツワナで開催しました。
- ・年内に進捗状況報告を受け、年度内に報告書のドラフト作成、来年4月末には報告書を公表し、5月初めに JMC、5月末には閣僚級会合を開く予定です。
- ・来年6月半ばには南アでサッカーのワールド・カップが始まる前には上記プロセスが終了する予定です。
- ・進捗報告書ももっと見やすくわかりやすくし、また、進捗状況がわかるウェブサイトを準備しています。

TICAD プロセスにおける市民社会との連携の課題：国際協力局参事官 山田彰

- ・TICAD プロセスがアフリカ開発に寄与するためには政府機関が努力するだけでなく、市民社会、民間企業、各国政府、国際機関との協力が重要です。
- ・ODA 予算が10年間で45%削減されてきたという状況の中で、TICAD プロセスが掲げた目標を達成することはたいへんな課題であり、市民社会の理解とサポートが必要です。
- ・普通の人たちにアフリカ支援の必要性を伝えることが必要とされており、市民社会組織の果たす役割は大きいのです。

座長：政府と市民社会が一緒になって途上国支援の必要性を訴えていく責任を負っているという意見に同感です。武政議員、福山議員に同趣旨のことを伝えたと、二人とも尽力するとのことでした。

JICA の取り組み：TICAD IVフォローアップ業務室 菊池太郎

- ・TICAD IVフォローアップ業務室が設けられています。
- ・昨年10月、JBIC との合併により、円借款も JICA の業務となり、3つのモダリティでアフリカ支援を行っています。
- ・JICA 予算が削減される中、アフリカ支援の予算は増加しており、既存のプログラムに加え、新しいプログラムを作っています。
- ・JICA のアフリカ支援プログラムを実りあるものにするために、アフリカ諸国政府、市民社会、援助機関が目

標において一致することが重要です。

UNDP アフリカ・ビューローの取り組み：プログラム・コーディネーター 石井かおり

- ・TICAD フォローアップ・メカニズムは、関わる機関・団体全てが主体的に活動するためのもので、共催者はタイムラインを明示し必要な情報を提供します。
- ・今年6月、日本政府と協力し、ウガンダ政府の後援を受けて、UNDPは世界観光機関とともにウガンダでアジア・アフリカ・ビジネス・フォーラムを開きました。
- ・39カ国から349人が参加し、観光を経済発展と環境保全のために活用することを目指して討議しました。
- ・日本からの観光客を増加させるためには、キャパシティ・ビルディングが必要なことが明らかになりました。
- ・9月に、英語の報告書を公開しました。

UNDP 東京事務所の取り組み：次席代表 八木浩治

- ・MDGs 達成にはアフリカ開発が必要であることの理解を広げるために、広報およびパートナーシップ拡大の取り組みを進めています。
- ・今年9月に、動く→動かすと札幌で公開セミナー「北の大地からアフリカへのメッセージ」を共催しました。
- ・今後も地方でのアフリカ理解を広げる取り組みを行っていきます。
- ・動く→動かすおよび Misia が始めたチャイルド・アフリカと一緒に、MDGs アドボカシーツールを作成しました。
- ・市民社会と協力して、若者から高齢者までより広い範囲の人々に理解を呼びかける努力をしていきます。
- ・JICA と、コメ倍増計画、ミレニアム・ビレッジで協力しています。
- ・TICAD プロセスにとって、市民社会との政策対話をさらに進めていくことが重要です。

5. 課題提起

アフリカ外交団（ADC）の立場から：ガボン共和国大使 クリスチャン・オバム

- ・横浜行動計画は実務的でアフリカ諸国および日本のいずれにとっても意味のある計画であり、TICAD プロセスはアフリカの国々にとって重要です。
- ・横浜行動計画の実施にあたって ODA が核になります。
- ・これまでに 75 の調査がなされ、今年 9 月 1 日以前に 25 の事業が完了し、5 カ国では病院支援が実施され、アフリカコメ倍増計画も開始されています。
- ・調査実施にあたってアフリカ諸国政府のスタッフも同行するようにすると、より主体的な取り組みになると考えます。
- ・西村外務大臣政務官は、ODA 予算カットの可能性を語りました。市民社会が ODA 予算カットに反対する声をあげることも重要です。
- ・岡井課長が報告された進捗報告の見直しに期待しています。
- ・ラウンドテーブルを主催した「動く→動かす」の取り組みはアフリカ開発への寄与につながり、感謝しています。

アフリカ市民社会の立場から：GCAP Africa ナイト・タンゼーン

- ・アフリカと日本の市民社会が討議した内容を提起します。



市民社会を代表して問題提起したナイトさん



フェスタスさん

- ・全ての発言者が語っているように、TICAD は主体的な参加を促すオープンな取り組みであり、市民社会にも開かれていることはよいことです。
- ・しかし、市民社会の参加のあり方は、まだ不十分です。
- ・政策決定、行動計画実施に日常的に参加する必要があります。
- ・そうした市民社会の参加を具体的なものとしました制度的なものとする必要があります。

6. 討議

CCFA Uganda カヒイグワ・フェスタス

- ・これまでの発言、とりわけ西村外務大臣政務官のあいさつにカづけられました。

- ・アフリカでの JICA の取り組み、特にウガンダでの取り組みを大きく評価しています。
- ・ウガンダでは、日本大使館、JICA 事務所、ウガンダ政府、日本とウガンダの NGO が参加する TICAD プロセス推進のための会議が持たれています。
- ・取り組みの一環として、青年海外協力隊員が、CCFA Uganda に派遣されています。
- ・この会議、および TICAD プロセス全体にとって市民参加の位置付けをさらに明確にし、不可欠のものと確認していく必要があります。

JICA 菊池

- ・JICA は、プロジェクトにおいても、イニシアティブや予算の面でも市民社会との協力を拡大しています。
- ・NGO によるプロジェクトのモニタリングや評価を歓迎します。
- ・各国の JICA 事務所は NGO との対話の機会を増やそうとしています。
- ・ザンビアでは、NGO が主催した会議に JICA も参加したことがあります。
- ・今日、市民社会から出された課題は持ち帰って JICA 全体のものとします。

外務省 山田

- ・外務省もプロジェクト実施にあたって市民社会との協力をさらに進めたいと考えています。
- ・しかし、スタッフが十分ではない中、個々の NGO と話をしながら取り組みを進めるのはたいへん困難です。
- ・NGO がネットワークを作って、提言や意見をまとめて提示してくれると助かります。

座長

- ・米国国際開発庁 (USAID) は、地元の人を雇用して地域のことで NGO と話をしています。
- ・話もスムーズにいくし、費用も少なくてすむ USAID のやり方を参照したらどうでしょうか？

オックスファム 山田太雲

- ・山田参事官がプロジェクト実施に関する市民社会との協力について発言されました。「援助効果」に関しても、市民社会との対話が重要です。
- ・明日、OECD・DAC による市民社会へのインタビューが予定されています。2011 年には、韓国・ソウルで援助効果に関する会議が開かれることになっています。
- ・アフリカの被援助国は多くのドナーと関係を持っており、それぞれのドナーがバラバラなやり方をアフリカに用いれば、アフリカ諸国は包括的な開発計画の策定や実施が困難になります。TICAD プロセスは、他のイニシアティブ、他の援助国とどのように協調していくのでしょうか？

- ・TICADでの誓約を守るにあたって、日本は自らの援助モダリティを変える、もしくは他のドナーとの連携を強化する必要があると考えますか？具体的に言うと、横浜行動計画では、「10万人の保健医療従事者の育成と維持」というアウトカム誓約ありましたが、フォローアップの進捗状況リストでは「研修」というアウトプットに変わってしまっています。アウトカムを達成するためには、日本がこれまでしてこなかった給与補てんを行うか、それができるドナーと連携する必要があるのではありませんか。

TICAD 事務局 岡井

- ・TICADは「日本アフリカ・サミット」ではありません。アフリカ開発をテーマにした国際会議です。参加国によって採択された横浜宣言、横浜行動計画の実施にあたって、全ての関係者が協調して取り組む必要があります。
- ・アフリカ諸国の多くで援助協調が始まっています。
- ・日本の援助の弱点をカバーし、強みを活かすために援助協調を活用したいと思います。

外務省 山田

- ・援助協調を進めることは当然です。
- ・しかし、同じ援助協調と言うことばを使っている、実際の進め方については、さまざまな違いがあるようです。
- ・支援を必要としている国々、人々の視点で援助協調を考えることが重要です。

ADC オバム

- ・オーナーシップとパートナーシップについてもっと概念を整理する必要があります。これらの概念は、アフリカでの援助を考える上でたいへん重要です。
- ・援助の効果に注目することは重要です。モニタリングと評価を行いながら取り組みを進める必要があります。

座長

- ・モニタリングと評価、援助協調が必要ということについて、援助国も途上国も合意しているものの、実際にどのように進めるかにあたっては、違いがあることが指摘されました。
- ・最近 OECD・DAC が開いた新興援助供与国に関する会合に参加しました。新興援助供与国とも対話を進め、ガイドブックを提示することが必要です。

CCFA グスターブ・アサー

- ・私はソーシャル・ウォッチという組織に関わっています。
- ・この組織は、開発政策のおよぼす影響をモニターしています。
- ・TICAD IVの時、私たちは、TICAD プロセスはアフリカの人々に寄与するものであるべきだと提言しました。
- ・ウェブサイトで TICAD プロセスの進捗状況が報告されるようになることはたいへんよいことです。ウェブでの報告にあたって、開発政策のおよぼす影響を示すのにどういった指標が使われるのでしょうか？
- ・ところで、TICAD プロセスのモニタリングに取り組む市民社会との対話を進めるために、アフリカ外交団は、こういったフォーカル・ポイントを設けていく予定ですか？



グスターブさん

TICAD 事務局 岡井

- ・進捗状況の一部は予算の進行状況で、また一部は、どれだけの命が救われたのか、灌漑面積がどうなったのかといった成果ベースで報告します。
- ・プロジェクト実施にあたっての市民社会との協力、援助協調の取り組みは始まっています。
- ・東京においても、JICA だけでなく国連機関、市民社会を交えた拡大タスク・フォースを作って取り組みを進めていきたいと考えています。

外務省 山田

- ・成果ベースでの報告には困難が伴います。
- ・できるだけ情報を公開・共有して、アフリカ諸国政府、市民社会がそれぞれの立場からモニタリングや評価を行うことができるようにしていきたいと考えています。

ADC オバム

- ・アフリカの大使として、一言言いたいことがあります。援助機関、日本の外務省などは、まず情報を提供すべきです。
- ・アフリカへ調査団を送るという際には、事前に相談してほしい。アフリカ外交団、アフリカの政府から調査に同行することも可能になります。

外務省 山田

- ・アフリカ外交団の熱心な活動に敬意を表します。
- ・これからますます連絡を取り合い、一緒に TICAD プロセスに取り組んでいきたいと思えます。
- ・アフリカ諸国の政府にも、外交団と同じくらい熱心に取り組んでもらえるよう働きかけてください。

ADC オバム

- ・アフリカであれ、日本であれば必要としている人たちに情報を伝えるためには、ウェブサイトが重要な役割を果たします。岡井課長が紹介されたウェブサイトに期待しています。
- ・ADC もウェブサイトを開いて情報を発信しています。情報を発信するだけでなく、さまざまなアクターとのリンクを充実させています。
- ・市民社会も重要なパートナーですので、「動く→動かす」ともリンクすることになっています。

動く→動かす 稲場

- ・オバム大使が言われたように、相互にリンクしていくことは、TICAD Vを準備するためにもたいへん重要です。
- ・今日のラウンドテーブルには、関係者の多くが参加し、お互い率直



日本の市民社会の参加者たち

に討論を交わしました。

- ・東京で、私たちは、市民社会もアフリカ外交団も含めた全ての関係者が参加する会合を定期的に持つことができます。
- ・このような会議は、プロジェクトの実施にとっても重要です。
- ・先ほども例にあげられた 10 万人の保健医療従事者の訓練を実施するのは、JICA です。もちろん JICA は一生懸命に取り組んでいますが、単独で実施するにはあまりに大きな仕事です。
- ・経験のある NGO が JICA と一緒に、保健医療従事者の訓練を行うことは可能です。
- ・JICA と NGO の連携を進めるためにも、関係者が一堂に会して、政策と実施について討議することはたいへん重要です。
- ・ですから、今日のラウンドテーブルを出発点に、さらに連携を進めながら TICAD プロセスに取り組んでいきましょう。

座長

- ・これまでの討議をまとめると以下の三つが言えます。
 - ◇違った立場から課題を検討するために、こうしたセッションが重要である
 - ◇政府や JICA と連携して活動することの重みを知っており、責任をとることもできる市民社会組織と共に責任を負って取り組みを進めることが成果につながる
 - ◇援助協調、援助効果を念頭においた取り組みが求められており、援助効果に関するパリ宣言は重要
- ・私自身が感じたことを二つ紹介します。
 - ◇オバム大使が言われた、調査団にアフリカ外交団が同行するというアイデアは、グッド・アイデアです。アフリカ外交団は何が進行しているのかを知ることができますし、また、こうした取り組みからよりよい成果が得られるでしょう。
 - ◇ TICAD プロセスを前進させるためには、日本の NGO のキャパシティー・ビルディングがさらに必要です。総選挙の前に、私は、民主党の鳩山代表、岡田副代表に、国際協力 NGO 基金という提案をしました。毎年 1,000 億円、10 年間で 1 兆円の「国際協力 NGO 基金」を設定し、毎年約 100 億円を NGO と市民社会が国際協用に活用する仕組みを作るという提案です。私が代表を務めている環境パートナーシップ会議(EPC)は 3 年間弱(2009 年 7 月～2012 年 3 月)で活用できるエコポイント資金 2,945 億円を管理しています。NGO にもそういったことができるのです。
- ・今日は、皆さん、ありがとうございました。次のラウンドテーブルが、できるだけ早く開かれることを期待しています。

参加者（敬称略）：

成蹊大学名誉教授 廣野良吉（座長）
アフリカ外交団団長 ガボン共和国大使 クリスチャン・オバム
外務大臣政務官 西村智奈美
外務省外務政務官室 伊藤直人
外務省国際協力局参事官 山田彰（アフリカ審議官組織参事官を兼任）
外務省中東アフリカ局アフリカ第二課課長 岡井朝子（TICAD 事務局）
外務省中東アフリカ局アフリカ第二課 伊東俊晃
国連開発計画アフリカ・ビューロ プログラム・コーディネーター 石井かおり
国連開発計画東京事務所 次席代表 八木浩治
JICA アフリカ部 TICAD IV フォローアップ業務室 菊池太郎
GCAP Africa Ms. Nite Tanzarn
Civic Commission for Africa (CCFA) Uganda unit Mr. Kahiigwa Festus
CCFA Chair, Social Watch Benin Mr. Gustave Assah

(特活) アフリカ日本協議会 動く→動かす事務局長 稲場雅紀

(特活) オックスファム・ジャパン 動く→動かす政策チームリーダー 山田太雲

(特活) ハンガー・フリー・ワールド 動く→動かすパブリック・モビライゼーション・チーム・リーダー
富田沓子

(財) 家族計画国際協力財団 矢口真琴

(特活) アフリカ日本協議会 代表理事 林達雄

(特活) アフリカ日本協議会 理事 高瀬国雄

(特活) アフリカ日本協議会 津山直子

(社) アフリカ協会 黒河内康

アフリカと神戸俊平友の会 代表 神戸俊平

(特活) DPI 日本会議 田丸敬一郎

(特活) DPI 日本会議 宮本泰輔

(特活) アフリカ日本協議会 牧野久美子 ((独法) 日本貿易振興機構アジア経済研究所)

パナソニック (株) 相沢俊行

NHK 国際放送局 フィリップ・メスメール

(特活) アフリカ日本協議会 動く→動かす TICAD アドボカシーチームリーダー 斉藤龍一郎